

# ひかりのこ

年度末園便り

聖ミカエル幼稚園  
2020年3月13日

## 「原風景一心の奥に残るもの」

年中少の皆さん、ご進級おめでとうございます。あとひと月したら、皆さんは、今よりお兄さん、お姉さんになり、幼稚園の中心となりますね。入ってくる新しい年少さんにも、どうぞ優しくしてくださいね。

年長のすずらん組の皆さん、保護者の皆様、ご卒園おめでとうございます。

聖ミカエル幼稚園での生活は、いかがだったでしょうか。お父さん、お母さんにしてみれば、お子さんが成長するにつれ、楽しいだけではなく、親として、親同士のつながりとして、どうすれば良いのか、何が正しいのか、色々と考えさせられたことでしょう。私も、30年前、初めて親になり、保育園や、町内会の子供会で、親としての立場で人と付き合うことの難しさや、楽しさをたくさん経験しました。でも、親として付き合うのですから、基本は、子どものことでした。子どものためになることならなんでもやりたい、と思い、行動したものです。そして、少しずつ自分自身が成長していったような気がします。

子どもたちはどうでしょう。あんなに小さかった子どもたちが、成長して、深く物事を考えられるようになり、友達を意識し、様々なことに挑戦したいと思うようになりました。これからも新しい環境の中で子どもたちは成長し続けます。そして、毎日のように新しいことがやってくる中で、幼稚園のことも忘れていってしまうでしょう。でも、あるときふと、幼稚園の風景がよみがえってくるかもしれません。

私も、この聖ミカエル幼稚園の出身です。幼稚園時代はおとなしくて、お友達ともあまり遊ばない子どもでしたが、幼稚園に勤める前は、よく夢の中に幼稚園の風景が出てきました。2階が青年寮の古い園舎、みんなで輪になってお祈りをしたホール、そして礼拝堂の石畳が、懐かしい、温かな感情と共に夢に出てくるのです。それが私の「原風景」です。

長い人生を歩んでいく子どもたちが、心の奥に残るものに支えられて、これからも成長しますように。そしていつか、その心の支えになった場所にもう一度帰ってきてくれますように。キラキラした目で、先を見つめて進んでいってください。がんばれ、すずらんさん。

園長 渡部良子

## キリスト教保育

### 「傷ついた<sup>あし</sup>葦を折ることなく」

1月初め、休暇で洞爺湖の近くを車で走っていた時、一時停止を無視して、かなりのスピードで国道に入ってきた外国人が運転するレンタカーとまともにぶつかるという事故に遭いました。ものすごい衝撃とともにエアバッグが膨らみ、気づいた時には車は180度逆を向いて止まっていました。直後は体に力が入らず、おでこには血が滲んでいました。相手の車の4人は軽症でしたが、助手席の妻は胸椎の骨折などで、一ヶ月経った現在も入院中です。この事故がテレビのニュースで流れ、大破した自分の車が映っているのが不思議でした。

こういう経験をすると、人間はいろいろなことを思います。まず、生きていては無条件に素晴らしいということ。そして改めて、感謝の思いが日増しに強くなります。更に思うことは、たとえ自分が命を失っていたとしても、天国で今までの人生を感謝できる自分でいたいという願いでした。

聖書の言葉を思い起こします。「(神は) 傷ついた<sup>あし</sup>葦を折ることなく、暗くなっていく灯心を消すこともない」。幼稚園のこどもたち、保護者の方々、先生たち、みんなみんな、神さまにとってすべての命は尊く、愛されているのです。

チャブレン 下澤 昌